

ニッタ瓦棒シート



比べて分かる! ニッタ瓦棒シート

各種改修方法の比較

項目	鋼板葺替え工法	塗料塗装工法	ニッタ瓦棒シート工法
工法概要	既設の鋼板を撤去し、再度新しい鋼板葺きをし、改修する工法。	既設の鋼板を活かし、劣化の程度に応じてケレンをおこない、塗料塗装をおこなう工法。	既設の鋼板を活かし、劣化の程度に応じてケレンをおこない、防錆処理後、加硫ゴム系シートおよび成型型物併用により防水する工法。
防水性	鋼板の線膨張、風圧、錆などでカシメ部が緩み、漏水の原因となる場合がある。		成型型物が瓦棒のカシメ部を覆うので、防水の信頼性は高い。
防錆性	塗料層が剥落している部分(特にカシメ部)や軒先部で錆びやすい。	塗料の耐久性に左右される。葺替え工法より錆びやすい。	酸素、水分の供給が遮断されるので、錆は発生しない。防錆剤を併用する。
耐薬品性	酸性雨、海水などで発錆しやすい。臨海地区、温泉地区には不適。		耐薬品性にすぐれる。
温度依存性	良好である。特に寒冷地に適している。		低温から高温まで安定している。
遮音性	金属面のため、音の伝搬は大きい。		ゴムシートのクッション効果により、雨音は小さくなる。
遮熱性	熱伝導率が大きいので熱は伝わりやすい。		遮熱塗料の併用で改善できる。
耐久性	鋼板の耐久性はすぐれている。基本的にはカシメ部、塗料の素材の耐久性となる。	塗料の素材により異なる。一般には5年程度で塗り替える。	素材はシート防水材として40年以上の実績がある。
施工性	既設鋼板を撤去するので撤去材の処理、雨養生の必要による居住性の悪影響が考えられる。	鋼板の劣化程度に応じて素地調整が必要。ケレン仕上げ精度が耐久性に大きく影響するので、細心の注意と熟練度を必要とする。	3~4種ケレンで十分に対応できる。
外観	新規に原形に復元するので良好である。	色調面では良好になるが、変形部があるとそのまま改善できない。	瓦棒形状もそのまま復元できる。メタリックカラーの併用で金属様式も維持できる。

製品を安全にお使いいただくために!

このカタログに記載されている以外の仕様では使用しないでください。また飲料水、食品と直接触れるような使用はしないでください。
重量物ですので、無理のない姿勢で運搬してください。
保管する場合は、倒れ

施工中、および施工後の維持管理上のお願い!

ニッタ化工品株式会社

<https://www.nitta-ci.co.jp>

本 社	〒556-0022 大阪市浪速区桜川4-4-26	TEL 06-6563-1206
東京支社	〒162-0808 東京都新宿区天神町10番地 安村ビル	TEL 03-3235-1713
札幌支店	〒060-0809 札幌市北区北九条西3丁目19-1 ノルテプラザ6F	TEL 011-747-1040
東北支店	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 小田急仙台東口ビル6F	TEL 022-292-1855
中部支店	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23 ニッタビル2F	TEL 052-551-5611
広島駐在	〒730-0042 広島市中区国泰寺2丁目2-5	TEL 082-535-3400
四国支店	〒761-8071 香川県高松市伏石町2018-13	TEL 087-869-1595
九州支店	〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目4-7	TEL 092-411-8303

防水専用ホームページアドレス <https://nitta-roofing.com>

- 本カタログに掲載の内容は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- カタログと実際の色とは印刷の関係で少し異なる場合があります。
- カタログのイラストは特徴を示したものです。現物とは外観の差異があります。
- カタログの記載事項は一般的な取扱いおよび標準的な場合のものです。特殊な条件下では異なる場合もありますので別途ご相談ください。



弊社は 40 年の実績を誇るシート防水材料の優良メーカーの団体である当工業会の加盟会社です

合成高分子ルーフィング工業会
<http://www.krkroof.net>